

薬学研究科薬学専攻（博士課程）

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

薬学研究科薬学専攻（博士課程）は、薬学分野の高度な学術的基盤を身につけ、主に医療薬学領域において極めて高度の専門性と豊かな学識を有し、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、地域および国際社会の発展を積極的にリードする人材の育成を目的としています。

本研究科薬学専攻（博士課程）のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判断された人は、以下に掲げるグローバルレベルの能力を身につけていると判断され、博士（薬学）の学位を授与します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、地域社会や国際社会でリーダーとして活躍できる能力
- 専門性の極めて高い能力と豊かな学識を有する高度医療職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や道徳的能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協働的に実社会においてリーダーとして貢献できる能力
- 最近の生命科学の進展の成果を基礎として、医薬品、食品成分、環境化学物質、毒物等の化学物質の生体作用を、遺伝情報の発現・制御（ゲノミクス）、タンパク質の機能発現・制御（プロテオミクス）、代謝物の変動の制御（メタボノミクス）、および化学物質の物理化学的性質の情報に基づいて議論することができる能力
- 安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供、生体障害因子から健康を衛るための研究・情報提供、医薬関連情報からエビデンスを引き出すための研究・情報提供、のいずれかができる能力
- 薬学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、医療にどのような帰結をもたらすかを地域に注目しながらかつグローバルな視点で評価し議論できる能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

薬学研究科薬学専攻（博士課程）では、それぞれの専門領域（薬探索、生体防御、医療）において、生命科学の全体像を学んだ、グローバルな視野を有する医療薬学分野の豊かな学識と極めて高度の専門性を有する専門職業人を養成することを目的とするため、以下のカリキュラムを設定しています。

- 先端生命科学特論、先端医療薬学特論、レギュラトリーサイエンス特論およびドライ

リサーチ特論を必修科目とし、高度な専門的な知識の修得およびグローバルな視野に立った豊かな学識の涵養を図り、ジェネラリストとして自らの研究領域を俯瞰できる能力を養成します。

- 特論演習では、自立した研究能力を有するスペシャリストを目指すために、グローバルレベルで各領域それぞれが専門とする教育・研究を対象として知識と技能の修得を目指します。
- 博士論文研究では、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて策定された研究方針を、副研究指導教員も加えた定期的なディスカッションをとおして形成的評価を繰り返します。最終的に博士論文として完成させることによりグローバルレベルの極めて高度な研究能力を養成します。
- 論文作成法特論では、研究・生命倫理に係る事柄やその他各種レギュレーションに関する事柄を理解し、適切な論文作成に向けた知識・技能・態度を身につけます。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

薬学研究科薬学専攻（博士課程）では、薬探索、生体防御および医療の各領域において、以下の学力や意欲を有する人を受け入れます。

志向性：将来の進路

- 薬学の専門知識を、グローバルな視点で個々人の主観的な生活と生命の質を高く維持することに活用しようとする強い意欲のある人
- 先進の探求的研究に広く興味をもち、グローバルレベルで専門性の高い問題解決能力を身につける意欲と医療に貢献するための新たな研究を発掘しようとする意志のある人

期待する能力：知識・専門性

- 有機化学、物理化学、生化学、生理学および薬理学の確かな学力を有する人
 - 薬学専攻（博士課程）において研究を行うために必要な基礎学力を有する人
- 入学前に学習しておくことが望ましい教科・科目：英語、有機化学、物理化学、生化学、生理学、栄養学、薬理学など

期待する能力：関心・態度・人格・思考・判断・実践的スキル

- 大学または社会で学んだ教養をさらに深化させ、専門知識のさらなる向上のため、自ら積極的に学ぶ主体性と意欲をもつ人
- 論理的・科学的な思考に基づいて物事の課題や問題点を考え、解決するために意欲的に努力する人